

第42回研究大会

地域とともに学校を創造する学校事務の追究

つながる
学ぶ
レベルアップ



令和8年8月4日（火）

朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

新潟市中央区万代島6番1号 TEL 025-246-8400

開会式・全体会

4階国際会議室

学びと交流のブース

4階国際会議室・3階中会議室

新潟県学校事務研究協議会



目 次

第42回研究大会要項

あいさつ

新潟県学校事務研究協議会長

熊 倉 雅 明

祝 辞

新潟県教育委員会教育長

太 田 勇 二 様

新潟県小学校長会長

藤 本 高 雄 様

新潟県中学校長会長

長谷川 裕 高 様

新潟県小中学校教頭会長

浅 山 景 様

新潟県小中学校PTA連合会長

板 倉 久 徳 様

全国公立小中学校事務職員研究会長

前 田 雄 仁 様

講 話

新潟県教育委員会講話

新潟県教育庁義務教育課長

川 村 尚 史 様

全 体 会

ともに創る、ともに楽しむ、これからの新事研

～軌跡を振り返り、会員とともに創り続ける「これからの新事研」を展望する～

学びと交流のブース 第1部 第2部

ブース 1 ヒント集もっと深掘りっ

ブース 2 業務の常識をぶち壊せ！～デジタル業務革命 2026～

ブース 3・6 すべての子どもたちが安心できる学校づくり①②

ブース 4 やっぱり参集だよ！集まれ同期・同年代！！

ブース 5 効果的な校内研修を考えよう

第 42 回研究大会要項

主 催 新潟県学校事務研究協議会
 後 援 新潟県教育委員会
 新潟県小学校長会 新潟県中学校長会 新潟県小中学校教頭会
 新潟県小中学校 P T A 連合会

1 期 日 令和 8 年 8 月 4 日 (火)

2 会 場 朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター
 開会式、全体会・・・4 階国際会議室
 学びと交流のブース・・・4 階国際会議室・3 階中会議室
 住所 新潟市中央区万代島 6 番 1 号
 TEL 025-246-8400
 URL <https://www.tokimesse.com/>

3 日 程

9:30	50	10:10	20	11:00	10	12:00	13:00	14:30	45	16:15
受 付 (20)	開 会 式 (20)	諸 連 絡 (10)	新潟県 教育委員会 講 話 (40)	休 憩 (10)	全体会 (50)	昼食 (60)	学びと交流の ブース第 1 部 (90)	移 動 (15)	学びと交流の ブース第 2 部 (90)	

4 開 会 式

- 1 開式のことば
- 2 新潟県学校事務研究協議会長挨拶
- 3 来賓祝辞
 (1)新潟県教育委員会教育長
 (2)新潟県小学校長会長
- 4 来賓紹介
- 5 閉式のことば

5 来 賓 新潟県教育委員会教育長 太 田 勇二 様
 新潟県小学校長会長 藤 本 高雄 様
 新潟県中学校長会長 長谷川 裕高 様
 新潟県小中学校教頭会長 浅 山 景 様
 新潟県小中学校 P T A 連合会長 板 倉 久徳 様

6 新潟県教育委員会講話

[新潟県教育委員会]

7 全 体 会

[担当：理事会]

テーマ ともに創る、ともに楽しむ、これからの新事研
 ～軌跡を振り返り、会員とともに創り続ける「これからの新事研」を展望する～

8 学びと交流のブース 第1部

[担当：研究部]

ブース1	ヒント集もっと深掘りっ R6年度研究部発行のヒント集には実践がたくさん！「その実践もっと詳しく聞きたい！」「もっと知りたい！！」そんなあなたは「ヒント集もっと深掘りっ」でレベルアップ！ [会場：国際会議室]	<発表者> 長岡市立宮内中学校 事務主幹 高山 良恵 小千谷市立総合支援学校 主任 相澤 周 阿賀町立上川小学校 主任 立川 将太 小千谷市立南小学校 主任 坪井 崇 関川村立関川中学校 主事 長谷川康太
ブース2	業務の常識をぶち壊せ！ ～デジタル業務革命 2026～ 学校の当たり前をアップデート。 覚醒のセッションで、生成AIとデジタルを武器にあなただけの「解」を掴め！ [会場：中会議室 301]	<発表者> 新発田市立猿橋中学校 主事 出塚 大貴 南魚沼市立蕨神小学校 主事 小山 桃
ブース3	すべての子どもたちが安心できる学校づくり① 特別支援教育について学びませんか？基礎基本から学べる講義です。学校生活で起こりうる事例から事務職員だからこそできる対応や支援、役割を一緒に考えてみましょう。 [会場：中会議室 302]	<話題提供者> 津南町立芦ヶ崎小学校 校長 渡邊 進 様

9 学びと交流のブース 第2部

[担当：研究部]

ブース4	やっぱり参集だよ！集まれ同期・同年代！！ 「気づき」を得たり、「解決」したりしたいことはありませんか？同期・同年代と自ら進んで対話をし、「語り合える仲間がいる☆話せてよかった☆」で一日を終えましょう！ [会場：国際会議室]	
ブース5	効果的な校内研修を考えよう 校内研修、マンネリになっていませんか？財務に限らず、効果的な校内研修についてアイデアを出し合い、職員も自分もわくわくする研修企画を一緒に考えましょう！ [会場：中会議室 301]	
ブース6	すべての子どもたちが安心できる学校づくり② すべての子どもが過ごしやすい環境を整えませんか？グループワークでは環境整備だけでなく、特別支援に関する様々な情報交換もできます。学校に持ち帰ってLet's Try！ [会場：中会議室 302]	<話題提供者> 津南町立芦ヶ崎小学校 校長 渡邊 進 様



「つながる 学ぶ レベルアップ」

新潟県学校事務研究協議会

会長 熊倉 雅 明

第42回研究大会が盛大に開催できますことに心より感謝申し上げます。

新事研は令和6年度に第41回研究大会を開催しましたが、「今後の新事研組織等の在り方について」（令和5年9月 組織等検討委員会答申）を受け、組織体制を見直す期間を設けたことにより、令和7年度は研究大会を開催しませんでした。上中下越で地区別での研修会はこの間実施していましたが、全県での研究大会は2年ぶりの開催となります。

上記答申では、学校事務職員が新事研に望む姿が多様化していることが示されました。それを受け、新事研では、会員の意志確認の在り方、運営部員の組織の在り方、「学校事務の手引き」の在り方等、新事研組織運営の改正に取り組んでまいりました。また、新たな取組として、学びたいチームでつながれる仕組みとして「フリー研究チーム」の発足、会員の意見や疑問を受け付ける「きかせてBOX」の設置とそれに対する広報誌での回答、研究部による「CONNECT」の発行、「公式 LINE」の開始、新事研Webの更新。新事研をコミュニティ組織としてより身近な存在となるよう取組を進めてまいりました。今回の組織の見直しは明確なゴールはありません。時代に合わせて常に組織も取組も更新していくこと、また、その更新を可能にする組織運営を行っていくことが今後も求められます。

本大会では、新潟県教育委員会講話の他、全体会と学びと交流のブースを二部制として合計6ブースを設置しました。全体会では、「ともに創る、ともに楽しむ、これからの新事研」をテーマに、答申を受けてのここまで新事研の軌跡を再確認し、会員とともに歩むこれからの新事研の姿について考えていきたいと思います。学びと交流のブースは二部制とし、「ヒント集もっと深掘りっ」「業務の常識をぶち壊せ！」「すべての子どもたちが安心できる学校づくり（第1部・第2部）」「やっぱり参集だよ！集まれ同期・同年代！！」「効果的な校内研修を考えよう」の全6ブースを設けました。本大会が学校事務職員同士の「つながり」を深め、新たな「学び」を得て今後の実践につながり、「レベルアップ」する機会となることを願っています。

最後になりましたが、大会の開催にあたり、御後援をいただきました新潟県教育委員会、新潟県小学校長会、新潟県中学校長会、新潟県小中学校教頭会、新潟県小中学校PTA連合会をはじめ、多くの関係機関、関係諸団体の皆様方から御支援をいただいておりますことに、心から感謝とお礼を申し上げます。また、今大会の企画・運営に格段の御尽力をいただきました指導者、話題提供者、発表者の皆様、そして運営部員の皆様に感謝申し上げます。

祝 辞

つな
がる
学
ぶ
レ
ベル
ア
ッ
プ

新潟県学校事務研究協議会
第42回研究大会



祝 辞

新潟県教育委員会

教育長 太 田 勇 二

新潟県学校事務研究協議会第42回研究大会の開催に当たり、心よりお祝いを申し上げます。

会員の皆様におかれましては、日頃より本県の学校教育の充実と発展のため、御尽力いただいていることに感謝申し上げます。特に、学校現場における業務の整理・改善や業務プロセスの見直し、ICTの活用など、効率的で質の高い事務運営に向けた取組を積極的に進めていただいていることに、改めて敬意を表します。

これまで、学校事務共同実施の推進により組織的な事務処理体制の構築に取り組み、学校全体における業務改善の中核を担っていただいているものと認識しております。今後も学校間での会計の相互チェック機能の強化等、更なる事務処理体制の強化に努め、他の教職員との適切な業務の連携・分担の下、校務運営への参画を一層拡大し、学校事務が確実に遂行される仕組みづくりに御尽力いただきますようお願いいたします。

本研究大会を通じて、会員の皆様がさらなる専門性の向上を図られ、業務改善の視点を取り入れながら、学校現場において一層活躍されることを期待しております。今後とも、本県教育の充実と発展に変わらぬ御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本大会の成功と、新潟県学校事務研究協議会のますますの御発展を祈念し、祝辞といたします。



ともに「地域とともに学校を創造する」

新潟県小学校長会

会長 藤 本 高 雄

新潟県学校事務研究協議会第42回研究大会が開催されますこと、心からお祝い申し上げます。

会員の皆様が、自らの資質・能力向上に向けて、研究協議を積み重ね、深められていることに敬意を表します。また、事務をつかさどる専門職として、積極的に学校運営に参画され、教育活動の充実を支えてくださっていることに感謝申し上げます。

少し前となりますが、「学校における働き方改革特別部会（平成30年4月）」の資料では、事務職員の業務について「学校におけるマネジメント機能充実のため、学校組織で唯一の総務・財務に通じる専門性を生かし、総務・財務に一定の責任をもって処理することで、より主体的・積極的に校務運営に参画することを目指している」と整理されていました。このことは、まさに事務職員の専門性を生かした学校運営への参画に対する期待が示されています。この資料を読んだとき、「事務職員とともに」という意識がこれまで以上に強まりました。一方で、日々の学校現場を振り返ると、事務職員の専門性に頼り過ぎていてのではないかと感じ、反省しました。専門性が高い事務職員の皆様に頼りにしつつも、私たち校長がより一層リーダーシップを発揮することが必要だと考えます。大会テーマ「地域とともに学校を創造する」の実現に向け、事務職員の皆様と協働し、ともに進んでいきたいと考えます。

最後となりますが、本研究大会が充実し、会員の皆様が資質・能力を一層向上されることをご期待申し上げますとともに、貴会のますますのご発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



第 42 回研究大会に寄せて～子どもたちのために、共に

新潟県中学校長会

会長 長 谷 川 裕 高

新潟県学校事務研究協議会第 42 回研究大会の開催、誠におめでとうございます。

会員の皆様には、日ごろから各校の学校運営や各地域の教育活動に積極的に参画いただき、児童生徒や教職員を力強く支えていただいております。厚く御礼を申し上げます。

学校の役割は、子どもたちの幸せのために、また、未来社会の発展・充実のために、子どもたちの能力や可能性をしっかりと伸ばしていくことであり、そのためには、管理職はもとより教職員と学校事務職員が連携して教育活動を推進していくことが大切です。

研究主題「地域とともに学校を創造する学校事務の追究」を掲げ、会員の皆様が主体的に取り組まれることは、新潟県中学校長会運営の基本方針の一つである『「地域の特色を生かし、地域とともに歩む学校づくり」の実現』と軌を一にするものであります。皆様の取組をしっかりと支え、校長の、そして校長会の責任や役割を十分に果たし、子どもたちや保護者、地域のために共に取り組んでまいりたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

最後になりますが、本日の研究大会が、会員の皆様にとって実り多きものになりますこと、新潟県学校事務研究協議会のますますのご発展、そして、会員の皆様のご健康とご活躍を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



中核的職務として期待すること

新潟県小中学校教頭会

会長 浅 山 景

新潟県学校事務研究協議会第 42 回研究大会が、開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

貴研究協議会からは、新潟県小中学校教頭会の活動にご理解とご支援をいただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。

さて、文部科学省は「チーム学校」の実現、学校教育の質の向上のために、事務職員を「学校経営や教育活動を支える基幹的職員」として重要視しており、事務職員の学校経営への参画によって、学校の総合力のさらなる向上を期待しています。

校長や教頭等の管理職に業務が集中するのを防ぐために、事務職員は「財務や組織のプロ」として学校経営の意思決定の場に参画することで、教頭とともに校長を補佐するマネジメント体制が構築できます。また、複数の学校の事務職員が連携する共同実施をとおして、事務の質の標準化と効率化を進めることができます。さらに、教員が抱えていた物品調達、各種申請手続きなどの事務・行事運営を事務職員が担うことで、教員の業務負担が軽減され、子どもと向き合う本来の教育活動に専念することができます。

このように、事務職員の職務は、学校の教育目標の達成と、教員の負担を減らし教育の質の向上を支える中核的職務と考えております。

本日の研究大会が会員の皆様にとって有意義なものとなりますこと、貴研究協議会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



祝 辞

新潟県小中学校PTA連合会
会長 板 倉 久 徳

新潟県学校事務研究協議会第42回研究大会が、盛大に開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。

また、日頃より学校事務職員の皆様には、学校教育の充実と円滑な学校運営のため、御尽力いただいておりますことに、深く敬意と感謝を申し上げます。

近年、学校を取り巻く環境は大きく変化しており、教育活動の多様化や地域との連携、働き方改革への対応など、学校現場にはさまざまな課題への対応が求められております。

そのような中で、学校事務職員の皆様が専門性を発揮し、教育活動を支えながら、子どもたちが安心して学べる環境づくりに取り組まれていることは、大変心強いことであります。

また、本研究大会は、日頃の実践や成果を共有し、互いに学び合う貴重な機会であり、これからの学校事務の充実と発展につながる大変意義深いものであると感じております。加えて、学校教育のさらなる向上に向けた新たな視点や実践を深める機会となることを御期待申し上げます。

本日の研究と交流が、会員の皆様にとりまして実り多いものとなりますとともに、今後の学校教育のさらなる充実につながりますことを御期待申し上げます。

結びに、新潟県学校事務研究協議会のますますの御発展と、会員の皆様の御健勝、御活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



子どもの豊かな育ちを支援する

全国公立小中学校事務職員研究会
会長 前 田 雄 仁

新潟県学校事務研究協議会第42回研究大会が盛大に開催されますことを心から御祝い申し上げます。

また、新潟県学校事務研究協議会の皆様におかれましては、日ごろから全事研の活動に対しまして、深い御理解と御協力をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

さて、本会では人材育成指標モデルの策定を進めております。このモデルは事務職員が専門性を十分に発揮し、学校運営に主体的に参画できるように資質・能力をどのように高めるかという方向性を整理・共有することを目的としております。また、事務職員が専門職と位置付けられるためには、専門的な知識・技能を明らかにすることが不可欠であるとの思いが起源にあります。これまでも本会や支部等の研究においては、経験に応じた役割や、そこに必要な知識・技能が示されることはあり、キャリア形成においては参考にしてきた事務職員も多いと思われます。しかし、それらは事務職員だけで検討されたものでありました。今回、本会が策定しているモデルは全事研アドバイザーボードにて協議をいただくことで、人事権を有する都道府県教育委員会等やサービスを所管する市町村教育委員会も含めて広く使われることを目指しています。そして、既に策定されている教育委員会も含めて、目指す方向性が合わさった人材育成指標が全ての都道府県教育委員会等で策定されていくことを願うものであります。

結びに、本研究大会が実り多い成果を収められますとともに、新潟県の学校教育並びに貴研究協議会のさらなる充実・発展につながることを御祈念申し上げ、御祝のことばといたします。

新潟県教育委員会 講話

つな
がる
学
ぶ
レ
ベル
ア
ッ
プ

新潟県学校事務研究協議会
第42回研究大会

新 潟 県 教 育 委 員 会 講 話

新潟県教育庁 義務教育課
課長 川 村 尚 史 様

MEMO

全体会

つな
がる
学
ぶ
レ
ベ
ル
ア
ッ
プ

新潟県学校事務研究協議会
第42回研究大会

全体会

ともに創る、ともに楽しむ、これからの新事研

～軌跡を振り返り、会員とともに創り続ける「これからの新事研」を展望する～

理事会

【これまでの軌跡】

令和5年9月 組織検討委員会答申



令和6年5月 会則改正



【これからの新事研】

ともに創る、ともに楽しむ、これからの新事研とは??時代のニーズに応えながら
会員の声をカタチにして進化し続ける新事研を皆様とともに描きます。

7月31日の研究大会には、たくさんの会員の皆様から参加いただきました。大会の様子は、新事研会報にてお知らせします。

会員の皆様が思い描く新事研について御意見をお寄せいただくために「新事研きかせてBOX」を設置しました。9月末までにお寄せいただいた声を紹介します。

会員の声

今後の活動は、無理をせずやる人がやれる範囲で行う活動になると思います。その際には、やってくれている人を批判したり否定したりするのはなく、応援する。そんな組織になるといいなと思います。

(Oさん)

新事研への加入が任意となることで、会員の減少と運営部員のなり手が減りそうという心配がありますが、会員や運営部員になるメリットをつくり、知らせるとよいと考えます。会員には、他地域の会員となりがりやすく明示する。運営部員に等々のメリットをわかりやすく明示する。運営部員には、年会費が免除(または減額)、県の旅費と同等程度の支給が保障される等のメリットを作ってみてはいかががでしょうか。

(かりんどう饅頭大好きさん)

「学校事務の手引き」は県教委等の公的な組織が編集するべきものではないかと思えます。もし共同実施(全県、エリアなど)で編集することになっても、新事研で編集委員を募るより抵抗感は薄くなると思えます。

(上記のご意見2つとも

週2でラーメンさん)

※ 紙面スペースの都合上、ご意見の趣旨が伝わるよう配慮した上で文章の一部を要約しております。ご了承ください。

よりよい組織となるために
一緒に考えましょう！
地区別研修会、全県支部長会で、これからの新事研を参加者の皆様とともに考えます。



新事研 きかせて BOX への投稿は こちら
<https://forms.gle/iqpyd225qU4p2Rbpq>
新事研 WEB からも投稿できるようになりました

お気軽に
御意見ください

- 特に御意見 求めています！
- ◆ 学びたいテーマで集まれるようにするには？
 - ◆ 学びたいテーマを聞かせてください。
 - ◆ 会員同士の連絡ツールで良いものありませんか？

求めています

今号は、9月に行われた合同運営部会全体会でのグループディスカッションの様子と、研究大会アンケートにお寄せいただいた声をお知らせします。

合同運営部会 全体会 グループディスカッション 9月20日 まちなかキャンパス長岡

運営部員の声

提案型でなく、皆で考える場、しゃべる場としての研究大会も良いのでは。

学校事務の手引きは
ほしいです。
編集委員はどうして
いったらいいかな。

総会は、会員全員が
参加しやすいことと運
営側の効率化の両方
がはかられるもので
あることが大事。



グループディスカッションでの声の一部をお知らせします。
お互いの部・委員会の取組をよく知ること、それぞれの関連性や最優先で検討しなければならないことが分かりました。

いろいろな人の
知識を集めるしくみ、
地区や支部の情報が
アップできるツールが
あるといい。

運営部員は大変
だが、県内での輪が広
がり、楽しさを感じるこ
ともあった。話せる環境が
あるのっていいね。

(グループディスカッションのワークシートより抜粋)



新事研 きかせて BOX への投稿は こちら
<https://forms.gle/iqpyd225qU4p2Rbpq>
新事研 Web からも投稿できます



求めています

- 特に御意見 求めています！
- ◆ 学びたいテーマで集まれるようにするには？
 - ◆ あなたが学んでみたいテーマを聞かせてください。
 - ◆ 会員同士の連絡ツールで良いものありませんか？

引き続き...

お気軽に
御意見ください

第 41 回研究大会アンケートより ～ 皆様の声 ～ 「きかせて」 くださりありがとうございます！	
(大会アンケートより抜粋)	
全体会について 感想はいいかがでしたか。また、心に残ったキーワードや感じたことなどをご記入ください。	
組織の見直しの主旨や方向性が分かりやすかったです。多様なニーズに応える価値ある組織を創るのは大変なことだと思いますが、期待しています。自分も意見を伝える役目があると思いました。	
「多様な価値観を認める」ことから、会員の意見を尊重して組織を運営していく方針が分かった。また、自分も会員の一員として他人事でなく自分事として考えなければならぬと感じた。	
個を尊重した活動は時代にあっていて楽しそうだと感じました。ただ実際にこの形で進めていくのは、今はまだ想像出来ない部分が多く、不安と期待、両方を抱きました。長年、大きな組織として動いてきたので、一人一人の主体性に任せる事でどこまで新事研の活動が維持できるでしょうか。	
委員のお二人のお話がとても分かりやすく、理解することができました。特に船に例えていたのが印象的でした。「組織のための会員」ではなく、「会員のための組織」という言葉にも考えさせられました。有意義な全体会でした。よりよい新事研になるようできることをやっていきたいと思っています。	
ただ言われたことをやって参加するだけでなく、これからは自分で考え選択していくことが大切なんだなと思いました。そして忙しい中、新事研の役員をしてくださっている方々に本当に感謝しています。	
新事研について、これまで皆さんが様々な思いをもって活動されてきたことがよくわかりました。今後どうなっていくのかは誰にも分からない状態だと思いますが、それを創っていくのは自分たちであること、自分もその一員であることをしっかりと自覚して考えていきたいと思っています。	
文面だけでは分かりづらかったことを詳しく解説してもらい、ようやく理解できました。小舟になればなるほど各舟の維持管理者は増えるのではないかと思います。また、新事研自体はいい団体ですが、活動時間の確保が問題だと思います。家庭等の都合で協力できない人も多いと思います。	
一人一人が自分事として考えていかねばいけないと、改めて思った。人任せにしない。	
多様性を尊重して会員に寄り添った研究団体を目指すことはとても良い考えだと思うが、険しい道のりだなと感じました。	
一人職場のため、悩みを共有し、相互に高めあえる仲間を求めて、「新事研」を立ち上げたてあろう先輩方。時代は変わったのだと思うと少し寂しくなりました。	
組織の在り方について考えさせられました。時代に合わせて変化していくことは当然のことだと思います。しかし、なんでも負担軽減していったら組織が衰退してしまうのではないかと考えます。	
新事研は、新採用の私にとって、今後成長するための、なくてはならない組織だと思います。未来の事務職員の支えになるような組織を維持していくために貢献していきたいと思いました。	
私は新事研の組織をきちんと理解できていなかったと痛感しました。全体会で話を聞いて、やっと少しづつ形が見えてきました。また、「多様性」の難しさを感じました。「一時的ではなく、ずっと役立つものを創っていく」という言葉が印象に残っています。今回のお話を聞いて、組織として存在してほしいと素直に思いました。再度研究大会紀要を熟読して自分なりに向き合っていきたいです。	

「会員のための組織」「コミュニティ」私は研究大会に参加する以外のことは全くしたことがなく、活動について何も分かっていません。自分もいつか、参加しないといけない時がやってくるのだろうと不安に思っていました。形が変わっていったとしても、負担になる部分はあるのだらうと思っています。でも、強制された負担と、自分で選んだ負担は多分全然違うので、少しずつ良い形になっていくといいなと思いました。	
運営部員などを務めたことが無く、運営体制等に疑問はありませんでしたが、負担を感じる方や「おかしい」と思う方もいらっしゃるかと聞いたことがありました。新事研という組織自体は残し、研究熱心な方々の活動を妨げず、学校業務を優先したい方も尊重するといった方針をよく理解することができました。	
歴史ある新事研も時代の変化によって変わっていかねばならないことを実感し、自分自身はどう関わっていくのか考えようと思った。	
新事研の在り方が変わろうとしていることにまず感心し、そのために具体的に行動なさっている方々に感謝します。よりよい形になっていくよう自分ができることを探しながら行っていきたいと思います。今後の新事研が楽しみにになりました。	
新事研の活動内容等知る機会がなく何をしているのか分からないまま、正直他人事になっていました。新事研の転換期、自分事として考えていきたいと思っています。	
研究大会全般について	
全体を通してお気づきの点や感想がありましたら、ご記入をお願いいたします。	
研究大会は、県全体の事務職員が集まることで、他市町村でお世話になった方と話す機会があるなど、研修以外にも有意義なものだと感じています。来年度はお休みですが、再来年度開催されることを楽しみにしています。	
研究大会の運営等ありがとうございました。準備は大変だと思うが、オンライン開催も良かったなと思う。繰り返して見ることができたり、第1希望にとらわれずすべての分科会を視聴できたりしたので。	
朱鷺メッセまでの移動や、1日がかかりの大人数での集まりという点を負担に感じていたので、来年度は開催しないと聞いて正直ホッとしました。ただ、他地域の方と会って話せるのはとても貴重で学びも多く得られました。もしそれを目的とするとするならば、講演を聴くのはオンライン等にして、グループワークなど対面でしかできないことに時間を使う機会にすればいいのではないかと思います。	
普段かかわりがない新潟市の事務職員と話ができただことは良かったです。県と新潟市の交流をもっと増やす形ならば新事研の会費を払う価値があると感じる。	
やはり大切なのは人と人とのつながりだなと感じました。他の参加者の方を見ているだけでも楽しそうに話している姿が多く見られました。研究大会は来年度しないと聞いていますが、全県で集まる機会は必要だと感じました。	
初めて参加しましたが、とても充実した時間を過ごすことができました。来年開催されないのが残念です。	
準備、運営等お疲れ様でした。ありがとうございました。今後変わっていくかもしれませんが、できれば新事研活動に参加し、何か力になりたいと思う研究大会でした。	
たくさんのご意見ありがとうございました。	
研究大会のあり方を皆で考えていきましょう。	



今号では、地区別研修会で会員のみなさんからお寄せいただいた御意見と、12月6日の合同運営部会、支部長会でのグループディスカッションの様子をお知らせします。

上・中・下越地区別研修会

地区別研修会で今後の新事研活動について話し合いました。

皆さんの御意見の一部を紹介します。

上越地区 R6.11.6

参加者 232人(アンケート回収 201人)

中越地区 R6.10.30

☆☆ 支部活動について各自の考えを支部で共有する ☆☆

- ・皆さんと新事研のことを考える充実した時間になった。
- ・新事研について話し合う機会があったのも良いと思った。
- ・現状がよくわかっていないので、何をどうするかの実案まで出せなかった。

1. 今後の支部活動について

- ・支部活動は別でも交流したい ...37.8%
- ・今まで通り上越・妙高・糸魚川で分かれた活動が良い ...34.1%
- ・支部活動は縮小したい ...15.9%
- ・3市で同じ活動がよい ...12.2%

■ 支持されたその他の御意見

「支部ごとに分かれての活動でも、活動内容や資料などの情報共有はしたい」

2. 来年度以降の地区別研修会

- ・毎年3支部合同で開催希望 ...50.6%
- ・2年に一度3支部合同で ...23.4%
- ・開催しなくても良い ...20.8%
- ・支部単位 ...3.9%

■ 支持されたその他の御意見

「教育事務所の御講義・実務研修の機会がありがたい」「運営の負担が大きい」

3. 今後の新事研はどのような活動ができる組織が望ましいか

- ・他地区の会員とのつながり・交流 ...52.0%
- ・国の動向・他県他地区の先進的な取組を知る機会がある ...30.7%
- ・サークルのように自分の興味があある研究活動ができる ...13.3%

■ 支持されたその他の御意見

「引き継ぎ学校事務の手引きの作成を」

～ 同じエリアの皆でトーク！～

【合同運営部会全体会】

12月6日、合同運営部会全体会を行いました。今回のグループディスカッションのテーマは、「今後の運営部員の公募」と「令和8年度以降の研究大会について」です。アイスブレイクの後、6つのグループに分かれて和やかに話し合いをおこないました。自由な発想でワークブックドキドキするようアイデアが飛び出しました。

やってみて分かる！

運営部員になった理由／運営部員の魅力は

- ・先輩から声をかけられて
- ・今まで誰かがやってくれていたから(恩送り)
- ・声をかけてもらえたのは嬉しい
- ・マイナスイメージ → やってみたら楽しかった
- ・ここでなければ出会わない人との出会い
- ・市町村、支部、エリア、年齢層を越えて
- ・日々の仕事への刺激になる
- ・人前で話すことが平気になった
- ・直接顔を合わせて他の部員と話すのが楽しい
- ・ランチ、懇親会も...



運営部は 沼から温泉へ...

部員って何するの？／公募のしかた

- ・入るまでディーブな「沼」のようなイメージだった
- ・気軽に出入りできる心地よい「温泉」だといいな
- ・仕事が終わった時期に公募してはどうか
- ・2年任期は長いけど...1年でまわらせるしくみづくり
- ・人材バンク的なもの、ボランティア、スポンサー参加
- ・など気軽に参加できる方法や役割があるといい

例えば旅費の支給業務だけお願いするとか

- ・運営部会体験会 ・運営部員サポーター
- ・総務部・研究部等の垣根を取り払い
- ・立候補した人に聞いてみるとヒントがあるかも
- ・来年度の活動が見えない中、情報がない中で部員になれるのか？ 運営部の魅力の発信が必要
- ・仕事の内容が分かるようなものがあるといい
- ・部員の楽しそうな姿を動画で流す インタビュー
- ・部員は会費が免除になるなどのメリットがあればいいのにな...

運営部員の募集案内がほしい

部の名前のイメージを刷新 ポップに

運営部員の声はいいか？がてしたか？ 話し合いの様子への感想や、「私ならこう思う」等の御意見をぜひお聞かせください

目指すのは 新事研フェス！？

どんな研究大会に参加したい？

- ・ゆるい分科会があったらいい ハードルを下げる
- ・他の人の身近な実践を聞きたい
- ・全県がつながる場
- ・意見交流する 直接交流する
- ・様々な人と話す場 立ち回ってみたいいなもの
- ・屋台形式はどうか 入会ブースも作る
- ・いろいろやってみてだめななら変えればいい！
- ・特別講演がおもしろい 呼べない人が呼べる
- ・物販コーナーがあったらよいのでは
- 例：事務職員のための付箋と民間とのコラボで開発
- ・互いに学び合える 底上げの機会となる大会
- ・大会で発表するのが研究部 → 小冊になる？

いろんな人に会いたい

「参加がいい」

研究大会の開催方法はどうしますか

- ・参加がいい いろんな人に会いたい
- ・週の真ん中はつらい 金曜日がいい
- ・分散型もいい 運営に人員が必要だけど
- ・グループワークがなければ録画配信のものも可
- ・オンラインの分科会なら自分のペースで研修可
- ・部員が春に変わるなら秋や冬の大会もありかも
- ・参加なら夏でしょう
- ・集まるなら朱鷺メッセ 朱鷺メッセ積立とか
- ・新潟テルサ、ビッグスワン、やすらぎ堤...
- ・ハイブ長岡、リリックホール
- ・大学を借りる 学校が集まっているところ
- ・講師の方の交通面に配慮が必要



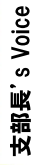
【全県支部長会】

～ 支部長の皆さんとトーク！ ～

12月6日午後、全県支部長会が開催されました。

会員継続と退会届の取扱についての説明、今年度行われた地区別研修の報告、支部長メール配信の御協力への御礼と、来年度以降の配信についての負担軽減の提案がありました。

その後、支部の様子について情報交換をしながら、来年度以降の活動について話し合いました。



支部長's Voice

- ・今年度で退会される会員の退会届の提出期限は次年度の体制を検討する上で遅すぎないほうが良いのではないかと（提案の2月末を1月末にする等）
- ・今後の支部長は、支部の事務局・まとめ役のような役割を担うのが良いのではないかと
- ・エリアの総括事務主幹からアドバイザー的な役割を担っていただけるとありがたい



情報交換

- ・今年度の地区別研修会の様子について
- ・役員選出のためのルールや内規のようなものが支部にあるか
- ・非会員の所属校への支部長配信・連絡はどうしているか
- ・地区別研修会における教育事務所とのつながりについて

先月届いた

会員の声

新事研の活動とは少しずつではありますが… 市立特別支援学校の就学奨励費の事務がすごく大変です。毎年度、様式集や各種通知文書等が発出されますが、異動等により担当が変わると、どの通知文書と様式が最新なのか分からないまま処理することになります。

そこで新事研 Web をお借りし、(例)「市立特別支援学校ルーム」を作成し、その中に最新の様式や通知文書を保存することによって、学校事務の手引き様式集のような形で利用できたらいいなと考えました。

特別支援学校所属の事務職員は本当に孤独です。特別支援学校の横のつながりが希薄で、つながるツールもない不安の中、各学校独自のルールに沿って就学奨励費の事務をしています。誰にでも特別支援学校勤務の可能性がありません。次に勤務する事務職員が困らないように、ぜひ新事研として御協力いただけたら幸いです。

(Yさん)

【研究部からのお知らせ】

研究部では、情報発信をきっかけとして会員とのつながりを創出し、実践と共有の好循環をつくっていききたいと考えています。
「研究部たより CONNECT」第1号の発行を1月下旬に予定しています。
ぜひ御一読ください。



▶ 新事研 きっかけBOX への投稿は こちら ▶

<https://forms.gle/I9pYd225qU4p2Rbp9> 新事研 Web から投稿できます

特に御意見 求めています！

◆ 学びたいテーマ

◆ あなたが学んでみたいテーマは何ですか？

◆ 令和8年度以降の研究大会について



お気軽に
御意見
見ください

新事研 Web から投稿できます

新事研きかせて BOX通信

令和7年9月16日発行
第5号
発行 理 事 会

～令和8年度 研究大会について、現在決まっていることをお知らせします～

第42回研究大会は
令和8年8月4日(火)
朱鷺メッセにて
参集開催します！

テーマは…
つながる
学ぶ
レベルアップ！

屋台形式（ブース形式）など
参集ならではの内容で
検討中です！



次ページは研究大会Q&A

おいせ

新事研 Web 会員専用パスワードについて
10月以降新事研 Web の会員専用パスワードが変わります。
変更前に変更日・新パスワードを会員のみなさまにお知らせします。

< 研究大会 Q&A

なぜ、参集なんですか？

新事研運営部では、昨年度から運営部全体会でのグループディスカッションや研究部・総務部合同チームでのミーティングなど、部員一人一人の思い、意見、アイデアを出し合う場を持ち、検討を重ねてきました。

運営部員の「やっぱり参集がいい！」「いろいろな人会いたい！」「つながりたい！」そんな思いと第41回研究大会アンケートの参集開催への前向きな声をうけて、**令和8年度 研究大会は参集開催とし、屋台形式を予定しています。**

また会場が朱鷺メッセなのはなぜ？

屋台形式での開催にあたり、研究大会の開催が可能な会場がないか全県を視野に検討しました。当初、県央での開催を考え、調査・検討を重ねてきましたが、朱鷺メッセと比べて**経費が大きな減額とならないことや準備・片付け等の運営側の負担が大いことがわかりました。**それらを踏まえ、機器等の設備面や全県からの交通の便についても総合的に検討した結果、令和8年度の研究大会は**朱鷺メッセで開催**します。

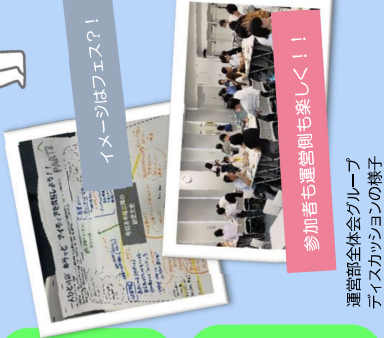
今までと同じ朱鷺メッセではありますが、**メイン会場をスノーホールから国際会議室へと変更し、経費の削減を図ります！**

結局、開催方法や会場は変わらないの？

今回は、このような決定となりましたが、会場や開催方法を固定するものではありません。令和9年度以降についても研究大会の内容にあわせて検討していきます。

運営部員の「やりたい」の実現と「参加してよかった」と感じてもらえる研究大会となるよう準備を進めていきます！
会員の皆様からの御意見やアイデア、情報をお待ちしています！

新事研きかせて
BOX



運営部全体会グループ
ディスカッションの様子

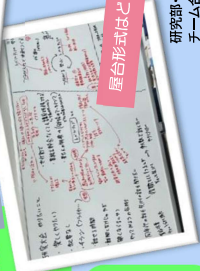
参加者も運営側も楽しく！！

イメージはフェス？！

参加者に何を待ち帰ってほしい？

屋台形式はどう？

研究部・総務部大会
チーム合同チーム
ミーティングの様子



新事研きかせて BOX通信

令和7年11月1日発行
第6号
発行 理事会



第8回 北越地区公立小中学校事務 研究会研究大会（富山大会） 第1部分分科会発表 報告

令和7年8月7日に、第8回北越地区

公立小中学校事務研究会研究大会が行われ、全事研新潟支部（新事研と新潟市事研の合同プロジェクトチーム）が第1分科会の発表を担当しました。

分科会発表に向け、昨年10月から準備をはじめ、大会主題「学校のウェルビーイングを考える事務職員」のもと、新潟支部は、「**協働から協創へ ～共に創る学校のウェルビーイング～**」をテーマに発表を行いました。

新潟支部の考えるウェルビーイング

新潟支部が考える「ウェルビーイングが実現された学校」とは、子どもにとって「**学び心地の良い学校**」、教職員にとって「**教え心地の良い学校**」、地域や保護者など大人たちにとって「**支え心地の良い学校**」です。子どもや教職員、地域住民、保護者が連携し、やりがいや達成感等を感じながら、よりよい学校を実現していくことが重要となっています。

協働から「協創」へ

新潟支部では、これまでも校内外の様々な人や組織と協働し、よりよい学校運営のために様々な取り組みを行ってきました。しかし、学び方・働き方の多様化等を背景に、対応すべきことはますます増えています。こうした状況でウェルビーイングを実現するためには、**これまでの協働の形を発展させ、既存の仕組みを活用し、新たな価値を創造する「協創」の考え方**－形骸化していることを直し、ねらいを新たに設定する。既存の仕組みをもとに新しい価値を創っていくこと－が必要ではないかと提案しました。

また、「協創」の具体例として、「既存の校内組織を活用し、協議の機会を増やすことで次年度予算要求に反映させた取組」や「共同実施グループ運営委員会の見直しを行い、教頭会や地教委と連携し、課題解決につなげた取組」、「ICTを活用し共同実施支援体制を構築した取組」、「学校運営協議会での熟議をもとに、環境整備に生徒の意見を取り入れた取組」を紹介しました。

第8回 北越地区公立小中学校事務 研究会研究大会（富山大会）参加者の感想（抜粋）



学校事務職員が教職員や共同実施、さらには児童生徒や地域などと協働し、学校のウェルビーイングにつながった実践が紹介され、大変勉強になりました。

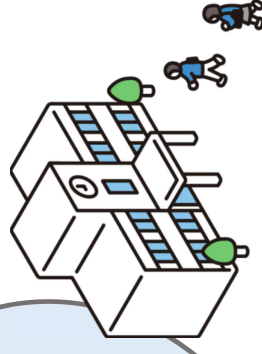
学校にかかわる一人一人のウェルビーイングが向上すれば、子どものウェルビーイングの向上につながり、教職員はもちろん地域の活力につながるという好循環が印象に残っています。自分もその好循環の一員になれるよう、一歩ずつでも行動していきたいと感じました。

「協創」は、難しくとらえてしまいがちですが、一人一人が得意なことや専門分野で補い合うような、小さなことからでもできることがある（既にできていることもある）と思いました。

今までより少しだけでも良いので「子どもも大人もwin-winにうれしいことはなにか」を考えながら、他者との交流を図っていくことで、実践、ウェルビーイングの好循環が生まれていくのではないのでしょうか。

獲得的ウェルビーイング（自己肯定感・自己実現）と協調的ウェルビーイング（人とのつながり・社会貢献意識）、2つのバランスが重要であり、調和的に育む日本型ウェルビーイングの話がとても印象的でした。

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実、日本型ウェルビーイングそのものであり、授業でも学校運営でも、本質は同じであるように感じました。先生方は授業で、学校事務職員はさらにマネジメント空間を拡張し、**もっと広い視点で環境や仕組みづくりの面からウェルビーイングを支える存在でありたい**と思いました。



ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

新事研 きかせてBOXへの投稿は こちら▶
<https://forms.gle/i9pYd225qU4p2Rbp9>



新事研きかせて BOX通信

令和8年1月30日発行
第7号
発行 理事会

地区別研修会 アンケート結果報告！

今年度の地区別研修会は、10月29日の上越地区を最初に、11月7日に下越地区、11月12日に中越地区で開催されました。今年度は研究大会がなかった分、地区別研修会に注力していただいたおかげで、どの地区も大変充実した研修となりました。支部長様をはじめ、運営にあたってくださった皆様に心より感謝申し上げます。今回の通信では、地区別研修会に関して「きかせてBOX」に寄せられた御意見への回答を含め、各会場の参加者からいただいたアンケート結果を抜粋して報告いたします。

上越地区会場

- ▶ **教育事務所長講話**「特別な支援を要する児童生徒や多様な保護者への対応」
「特別支援の現状がよく分かった」「傾聴・受容・共感が特に印象に残った」
「冷静に対応したいと思った」「他校との意見交換が参考になった」「対応は教員がするものと思っていたが、自分の役割を見直すきっかけになった」
- ▶ **運営部活動紹介**
「活動内容がわかりやすかった」「運営部の雰囲気の良いさが伝わった」「自分もやってみたい」「興味がわいた」「同世代の実践発表に刺激を受けた」
- ▶ **講話「学校事務と行政をつなぐ」**
「普段は聞けない内容が多く、興味深く聞くことができた」「視野が広がった」「根拠を調べるとい言葉が印象に残った」「対談形式で楽しく聞くことができた」「もう少しお二人の話を聞きたかった」「時間が足りなかった」
- ▶ **グループワーク**
「普段話さない人と話せて新鮮だった」「同じ世代と話せて楽しかった」「気軽なテーマだった」「話が盛り上がり、時間が足りなかった」「同市で偏っているグループがあった」「他グループの声で聞き取りづらいう場面があった」「今回のようなグループワークを続ければ仲間が増え、仕事しやすいと思う」
- ▶ **運営全般について**
「準備・運営が丁寧ですばらしかった」「会場（市民プラザ）は駐車場も広く良かった」「学びも楽しさもある有意義な研修だった」「新事研としてのつながりを実感できる、すばらしい研修会だった」
- ▶ **ボランティアについて**
「刺激や学びが大きく、またボランティアをやりたい」「ボランティアがたくさんいてくださり助かった」



「興味がわいた」

中越地区会場

- ▶ **教育事務所長講話**
「学校事務職員・教職に携わる者としての原点を思い出し、襟を正して仕事に向き合いたい」「職務に対する使命感・誇りを再認識した」「コンプライアンスや判断基準の重要性」「一人で抱え込まず、人の力を借りることの大切さ」
- ▶ **服務勤務研修**
「危機管理・安全管理を自分事として捉える視点」「日常的な点検・環境整備の必要性」「実例を通して理解できた」「学んだ注意点やポイントを自校の実情に合わせて整理し、日常業務に生かしていきたい」
- ▶ **給与・旅費事務研修**
「扶養手当・通勤手当について、考え方や取扱いを整理できた」「実務に即した説明がありがたい」「事実発生日や期及返納など、実務で迷いやすい点が理解できた」
- ▶ **講演「全員が主人公」のチーム作りー主体的に関わりやすくなる職場とコミュニケーションー**
「傾聴の重要性が強く印象に残った」「主体性を持って組織や共同実施に関わる意識が高まった」「対人対応・質問責任への気づき」「コミュニケーションがチームづくりの土台であると再認識した」
- ▶ **意見交流会**
「意見交流の時間が確保されていて良かった」「普段会えない人と話せる貴重な機会だった」「強制参加で

なかった点が良かった」「意見交流会の位置づけや内容が事前案内で分かりにくかった」

▶運営全般

「全体を通して、学びの多い研修会であった」「1日でゆっくりめの進行日程は良かった」「半日日程希望」「ハイブリッド開催を希望」

◆おしらせ

今年度は、中越地区支部長会より「令和7年度地区別研修会(中越会場)」記録を発行しています。

そちらも合わせてご覧ください。

下越地区会場

▶教育事務所長講話

「非運行為・人事異動方針・教育施策・いじめ・不登校など、県全体の現状を知ることができた」「バイアス（思い込み）の話が、大変興味深かった」「自校の取組を考えるきっかけになった」「認識のアップデートができた」「学校が今やるべきこと、事務職員としての立場から何ができているかが明確になった」

▶給与・旅費事務研修

「指導結果を紙を読んで終わりではなく、具体事例・背景とセットで解説してくれたおかげで再確認できた」「初歩的なミスがないよう、改めて気を付けたい」「引継ぎ事項や処理経緯は「誰が見ても分かる」ように意識したい」

▶講演会「学校事務をつかさどる意義と学校財務の実践」

「同じ学校事務職員とは思えないほどの知識量と実践力だと思った」「相対的専門性、R-PDCA+B、つかさどるの意味など、概念レベルの学びが深い」「自校の財務や業務を見直したいという“内省＋行動モデル”につなげていくことに刺激を受けた」

▶実践交流

「教材備品・ICT・地域協働の実践がリアルで参考になる」「自分にもできそうな実践があった」「すぐに真似したいアイデアが得られた」「他市町村・他校の状況やツールが聞けて刺激になった」

▶運営全般

「オンライン参加でも内容がよくわかった」「校務の合同に傾聴できたのが助かった」「興味深い講演をオンラインで聴講できてありがたかった」「グループワーク・他支部との交流の時間が短く、せいかくの機会なのに、もう少し話したかった」「内容は充実していたが時間が足りなかった」

アンケートの回答ありがとうございます！

多くの皆様からアンケートに回答いただき、ありがとうございます。全ての地区を通して、「非常に有意義だった」「学びの多い研修だった」といった前向きな御意見を多数いただき、支部長様や運営に携わった皆様の熱意と工夫が、研修会の成功につながったものと確信しております。

一方で、記述回答や「きかせてBOX」には、教育事務所（給与係や支援1課）の講話に関して、「非会員も参加費を無料にしてほしい」という御意見が寄せられました。今回、上・中越地区では非会員から参加費をいただきましたが、下越地区では教育事務所の講話・研修に限り無料といたしました。地区別研修会は教育事務所が主催する研修とは異なり、会員の皆様が受講したい研修を企画しているものです。また、教育事務所の講話を含め、研修会の運営には経費がかかっております。これらの費用は会員の皆様からいただいた会費で運営しておりますので、公平性の観点からも、今後は全地区で非会員の参加は有料とさせていただきます。御理解くださいますようお願いいたします。

また、ハイブリッド開催を望む声もありました。今回、下越地区では諸事情によりハイブリッド形式で開催しました。アンケートでは肯定的な回答を多くいただいた成果があったと実感しておりますが、機材確保や経費、そして労力が大幅にかかり、運営された方の中には研修を受けられない方もおられました。これらの事情により、ハイブリッド形式での開催は容易ではありませんが、皆様からの御意見を踏まえて検討を重ねてまいります。

その他、皆様からいただいた貴重な声は、今後の地区別研修会の企画に活用させていただきます。今回いただいた「良かった」という多くの声を励みに、今後もより魅力的な研修を検討してまいります。引き続き、皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

新事研 きかせてBOXへの投稿は こちら▶

<https://forms.gle/i9pYd225qU4p2Rbp9>



新事研きかせて
BOX

MEMO

学びと交流のブース

第1部 第2部

つな
がる
学
ぶ
レ
ベ
ル
ア
ッ
プ

新潟県学校事務研究協議会
第42回研究大会

学びと交流のブース —プロローグ—

研究部

いよいよ2年ぶりの研究大会です。この2年の間、新事研では組織や活動の見直しに伴い、令和7年度は研究大会を休止し、今後の在り方について改めて考える時間を設けました。検討は理事会だけでなく、運営部員全員でグループワークを実施し、一人一人が自分の想いや意見、アイデアを率直に出し合いました。その中では、「そもそも研究大会は必要か」という根本的な問いにも向き合いながら、「どんな研究大会に参加したいか」「どんな研究大会を運営したいか」について考えました。考えは人それぞれ様々にありましたが、印象的だったのは、運営部員の多くから「いろいろな人と会いたい!」「集まって話すのは楽しい!」「他の事務職員の話が聞きたい」という声が多く挙がったことでした。

新事研の魅力は、様々な地域、世代の学校事務職員が、それぞれの経験や知識を持ち寄って集まり、対話を重ねながら学び合えるところにあります。研究大会の持ち方にも、第38・39回研究大会のように、オンライン開催という選択肢はありました。しかし、多くの運営部員の声から、自分たちが求める「参集」の研究大会を開催することを決定しました。オンライン研修や生成AIの普及により、一人でも学びを深めることができる時代になりました。その一方で、他者との交流によって深められる学びが確実にあること、その価値を、これまで以上に実感していたのではないのでしょうか。

こうした思いから、今年度は大会テーマを「つながる 学ぶ レベルアップ」とし、テーマをそのまま形にした「学びと交流のブース」を企画しました。日々の実践や課題を共有し、互いに学び合い、知識や意欲を高め合う場となることを目指しています。

「学び」—自ら選び、主体的に学ぶ—

「フェスのような楽しい研究大会にしたい!」

気軽に参加できて、いろいろなものを吸収できる、わくわくする研究大会にしたい!—そんな思いから、様々なテーマの学びの場をつくることを企画しました。

「学びと交流のブース」は、運営部員自身の「こんなことを学びたい」という思いから企画がスタートしています。20を超える企画案の中から、研究部員だけでなく総務部員や理事も含めてコンペを行い、最終的に今回の5つの企画を選び、形にしました。

参加者は、自身の課題や関心に応じてブースを選択します。自らの意思で選び、主体的に関わることで、学びはより深いものになると考えています。そのため、各ブースは一方向的に知識を提供するだけの場ではなく、参加者自身が関わりながら学びを得る形式となっています。

「交流」—対話から生まれる共感と納得—

実は、どのブースも何らかの「正解」を提示するような内容にはなっていません。提示するのは、「きっかけ」や「手がかり」、あるいは「選択肢」です。そこから何を考え、どのような答えを導き出すかは、参加者一人一人に委ねられています。

日々の業務で抱える悩みや葛藤を語り合う中で、「私だけではないんだ」と共感し合えること。異なる視点や他者の実践に触れることで、「なるほど」と納得できること。こうした対話の積み重ねが、私たちの学びを深めてくれると考えます。

学校事務職員は、多くの場合1人配置であり、業務が属人的になりがちです。どのようなやり方が最適なのか、アップデートしていく難しさもあります。また、職務は多岐にわたり、学校の状況によって求められる対応も異なります。近年では、校務DXの進展に伴い、生成AIやデジタルツールの活用に関わる場面も増加しています。さらに、多様な子どもたちに対し、学校としてどう配慮し、対応していくかという視点も重要になっています。このように様々な力が必要とされていますが、得意なことや知識、発想は人それぞれ異なります。だからこそ、他の学校事務職員との交流は大きな意味を持ちます。実感や実践に基づく言葉を共有し合うことで得られる学びは、非常に大きく、私たち自身の可能性を広げてくれるものとなるはずです。

.....

次のページからは、各ブースの内容紹介となります。ブースで発表される内容ではなく、それぞれのブースに込められた意図や想いを伝えるものとなっています。

また、私たちは、ただ学ぶのではなく、「なぜ学ぶのか」を大切にしたいと考えました。そのために、学校事務職員や学校をとりまく現状や課題について整理し、求められる資質を理解し、共有することを意識しました。その上で、各ブース担当者が一人の学校事務職員として日々感じている課題や疑問について、素直な気持ちを語っています。これらは、確かに一人の学校事務職員の課題かもしれませんが、しかし、実は参加する皆さんとも通じる課題なのではないでしょうか。それぞれが自分なりの答えを探すために、ぜひ一緒に学び合っていければと思います。

ヒント集もっと深掘りっ ～実践の想いやきっかけから次の実践へ～

研究部 ブース 1

発表者	長岡市立宮内中学校	事務主幹	高山 良恵
	小千谷市立総合支援学校	主 任	相 澤 周
	阿賀町立上川小学校	主 任	立川 将太
	小千谷市立南小学校	主 任	坪 井 崇
	関川村立関川中学校	主 事	長谷川 康太

1 ヒント集とは

研究部では、令和6年度に「調査結果ピックアップ&ヒント集」(以下、ヒント集)を発行しました。これは同じく令和6年度に行った第11回「標準的職務通知」等に関する実態調査の回答の中から、特に注目すべき意見や実践について取り上げ、会員の日々の取組へのヒントや気づきとしてまとめたものです。

ヒント集はこちら



ヒント集には学校、個人、共同実施等での様々な実践を掲載しています。何か課題を見つけて困ったとき、新しいことに挑戦したいときに、ヒント集を覗けば、新たなヒントや気づきが見つかるかもしれません。そのヒントや気づきは、きっとあなたの実践を後押ししてくれます。

2 実践共有の意義

共同実施や研修会において、実践共有の機会が設けられることは少なくありません。それは、効果的な学びが得られると感じている人が多いからではないでしょうか。では、実践を共有することの意義とは何でしょうか。

他の学校事務職員の実践を見聞きすることは、業務改善に役立つ具体的な方法やアイデアを得る機会であり、自分では思いつかなかった視点や考え方に触れる機会となります。また、他の学校事務職員が創意工夫を重ね、改善に挑戦している様子を知ること自体が刺激となり、「自分も何かやってみよう」という前向きな気持ちを生み、モチベーションの向上にもつながります。つまり、実践共有は、他者の視点や考え方からヒントや気づきを得て、一人一人が実践に踏み出すための後押しとなるものです。そして、実践を重ね、経験を積み重ねることで、学校事務職員としての成長が確実に促されると考えます。

3 想い・きっかけの共有

前述したとおり、実践共有を通して他者の視点や考え方に触れ、新たな知識・アイデアを得ることは、次の実践に踏み出すための大きな力となります。実践共有を行う上で特に重要なのは、実践の原動力となる「想い」や「きっかけ」を示すことです。

実践には必ず、「なぜその取組をしようと思ったのか」「どのような課題意識があったのか」といった「想い」や「きっかけ」があります。実践者の想いに触れ、背景を知るとは、理解をより深めること

につながります。また、想いやきっかけは、具体的な手法よりも、自身の状況に重ね合わせやすいため、実践共有を受ける側にとって、取り入れやすい学びになります。「自分も同じ悩みや課題を抱えている」「この視点なら自分にもできる」という気づきから、実践のきっかけを得ることができます。

実践共有で得たものをきっかけに、新たな実践が生まれ、それを共有することで、誰かが一步を踏み出すきっかけとなる。そのように学びと実践が循環し、発展していくことを期待しています。

4 ブース構成

(1) 実践深掘りインタビュー

実践深掘りインタビューでは、ヒント集に載っている実践の提供者や日々共同実施グループをまとめている実践者を発表者に招き、ヒント集に載せきれなかった内容、日々の実践の想いやきっかけなどについてお話しいただき、共有を行います。以下、ヒント集等に掲載した実践などを基に、今回インタビューを行う方たちへ深掘りする内容をまとめました。



関川村立関川中学校
主事 長谷川康太

管理職に協力していただき、職員研修で給与諸手当届出システムの操作手順や旅費、給与、休暇を確認しました。



小千谷市立南小学校
主任 坪井崇

メールで届いた文書について、内容を精査し全部印刷しない・一部のみ印刷することを提案しました。



小千谷市立総合支援学校
主任 相澤周

学校預り金未納対応として、特別支援教育就学奨励費を学校長委任できるかが明確に示されていなかったのですが、根拠を調べたり、他の特別支援学校から情報を得たりしました。



阿賀町立上川小学校
主任 立川将太

学校共有フォルダの構成の改善や、Google chat の活用による職員室内連絡手段の改善、職員室内に大型モニターの導入、既存の学校メールシステムを利用した出欠席報告手段の開設を提案しました。



長岡市立宮内中学校
事務主幹 高山良恵

新採用支援の取組の紹介や、今年度始めた大規模校支援について、その模索の様子を共有します。共同実施における「各学校への支援の在り方」について一緒に考えましょう。

(2) グループワーク『しんじけん立ちトーク！！』

実践深掘りインタビュー後は、参加者同士が1対1で実践をインタビューし合い、共有するグループワーク『しんじけん！立ちトーク』を行います。

インタビューする時は、自分が気になることを自由に聞くことができます。自分だったらどう考え、行動するか、自校に置き換えて考えながらインタビューすると、実践のヒントが得られます。

インタビューされる時は、どんな実践でも自信を持って共有しましょう！普段の整理整頓やちょっとした工夫も立派な実践です。その日々の工夫を知りたいと思う学校事務職員はたくさんいます。

そしてまた、自分の実践を振り返り言語化することは、客観的に実践の価値づけを行うことであり、自信や成長の実感を得ることにつながります。自信や成長の実感を得て、次へ踏み出す一歩をつかむ時間にしましょう。

MEMO

常識をぶち壊せ ～デジタル業務革命 2026～

研究部 ブース 2

発表者 新発田市立猿橋中学校 主事 出塚 大貴
南魚沼市立蕨神小学校 主事 小山 桃

1 こんなに便利なツールがあったのか！

私が生成AIなどの新しいデジタルツールに出会ったとき、最初に感じたのは純粋な驚きと感動でした。これまで時間のかかってきた作業が、一瞬で鮮やかに片付いていく。その心地よさを知ったとき、「この便利さをみんなで共有したい」という想いが溢れてきました。これが、本研修を企画した原動力です。デジタルは決して難しいものや仕事を奪うものではなく、日々にゆとりを生む最高の味方です。今回の研修が、一人でも多くの人にとって「これ、すごい！」「こんなこともできるんだ」と誰かに伝えたいくなる素敵なきっかけになることを願っています。

2 これからの学校経営における学校事務職員の役割

文部科学省の「公立学校の教育職員の業務量の適切な管理その他教育職員の服務を監督する教育委員会が教育職員の健康及び福祉の確保を図るために講ずべき措置に関する指針」では、教員が教育活動に専念するための環境整備の一環として、「学校と教師の業務の3分類」（以下、3分類）が示されています。この3分類では、学校における業務を3つに整理し、それぞれの役割分担を明確にしています。しかし、教員から学校事務職員等へこの指針に沿って一律に業務を割り振るだけでは、表面的な解決にとどまってしまうのではないかと考えられます。そこで、3分類で示されている考え方を学校事務職員の仕事に当てはめて整理します。



3分類

（1）身近なツールを用いた業務の進め方の見直し

重要となるのは、形式的な業務分担にとどまらず、学校事務職員が中心となって校務システムや身近なクラウドツールを導入し、現場の仕組みを変えていく姿勢です。

たとえば、身近なデジタルツールの取り入れによる調査・統計への回答や広報資料作成の合理化、共有フォルダや同時編集機能を活用した効率的な情報共有体制の構築、生成AIを活用した起案サポートなどが挙げられます。さらには、学校徴収金の取扱いや地域連携窓口のあり方の調整など、現場で実践できる具体策は数多く存在します。

（2）仕組みの改善による負担の生まれない環境づくり

デジタルツールを用いた業務改善は、単なる一時的な課題の分担ではありません。課題発生の原因や背景、さらには仕組みそのものを見直すことで、将来的な課題の発生を未然に防ぐ、あるいは抑制することにつながります。

このように学校事務職員が業務プロセスの刷新を後押しすることは、教員のマルチタスクによる負担や伝達ミスを軽減し、児童生徒と向き合う時間を確保することに直結します。これこそが、負担の生まれない円滑な学校経営の実現に向けて、学校事務職員が担う役割の一つであると考えます。

3 教育DXロードマップが描く未来

3分類に基づく業務分担を現実のものとする強力な背景に、国の強力な政策的方針があります。令和7年6月、デジタル庁・総務省・文部科学省・経済産業省の4省庁が連携し、「教育DXロードマップ」(以下、ロードマップ)の改定がなされました。このことから、学校のデジタル化が、単なる「改善案」ではなく、国が「工程表」として示した実現すべき取組であることが分かります。このロードマップが掲げる「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会」というミッション、「学ぶ人のために、あらゆるリソースを」というビジョンを学校経営に取り入れ、学校事務職員として何ができるかを模索し、一步を踏み出すきっかけとなることを目指すため、ロードマップの考え方を学校事務職員の仕事に当てはめて整理します。

(1)「12のやめること」から「日常化」へ

ロードマップでは、教員の負担軽減の前提として、欠席連絡の電話対応や現金徴収、紙の会議資料配付などを含む「12のやめることリスト」が明示され、これらをデジタルへ置き換えていく方針が示されています。この方針を受けて、他の教職員と協働しながら適切なデジタルツールへの移行を円滑に進め、「空気のように当たり前のツール」として校内に定着させていくことが重要です。これにより、教員が児童生徒と向き合うための時間とエネルギーを最大化させることができます。



やめることリスト

(2)「共有」から「協働」へのシフト

ロードマップでは、単に情報を見えるようにする「共有」段階から、職種を超えて共に一つの仕組みやデータを動かす「協働」の段階へとシフトしていく重要性が示唆されています。これまでは特定の担当者しか情報を持っていない「情報の個人持ち」の状態が多く、それが業務の停滞や教員の心理的負担につながっていました。

クラウドを活用した同時編集などの環境を整えることで、お互いの進捗や意図がリアルタイムで可視化され、無駄なすれ違いや確認作業を減らすことができます。こうした効率的な環境を提案し、教員と共に歩む姿勢そのものが信頼関係を深め、より質の高い学校経営を支える「チーム学校」の強固な基盤となります。

4. 広がる可能性とワクワクする未来へ

本研修で紹介する事例は、これまでの校務の常識を打ち破る無限の可能性への入り口です。

「仕方ない」と諦めていたアナログな慣習を「もっと楽に、楽しく」という探求心でアップデートした先には、これまで以上に自由でクリエイティブな学校現場が広がっています。デジタルの活用は、私たちの仕事にゆとりを生み、児童生徒や教職員との笑顔の時間を増やしてくれるものです。今日感じたワクワク感を胸に、まずは同じ学校事務職員の仲間にその驚きをお裾分けしてください。その一步が、学校全体に笑顔の輪を広げ、2026年、そしてその先の未来を創る大きな力になっていきます。

すべての子どもたちが安心できる学校づくり
～イマドキの子どもを理解する 「こんな子いたらどうします？どうしてます？」～

研究部 ブース3・6

話題提供者紹介

渡邊 進 様

Watanabe Susumu



出身地 津南町出身・在住



現職 津南町立芦ヶ崎小学校 校長



出身大学

信州大学教育学部（平成5年卒）

上越教育大学教職大学院（平成28年修）



経歴

- ・新潟県公立小学校 教諭（約23年）
（上越市・十日町市・津南町ほか複数校）
- ・上越教育大学教職大学院派遣（1年）
- ・魚沼市立湯之谷小学校 教頭（2年）
- ・十日町市教育委員会 学校教育課 指導主事（3年）
- ・魚沼市立湯之谷小学校 校長（3年）
- ・津南町立芦ヶ崎小学校 校長（2年／現職）

特技

バルーンアート
写真撮影
ルービックキューブ

研究・指導実績

- ・東日本情報教育担当者研修派遣
（平成13年）
- ・長期企業体験研修派遣
（上越ケーブルビジョン：平成15年）
- ・上越教育大学教育実践研究論文 入選
（総合的な学習の時間：平成17年）

管理職になってからの関心ごと

学級づくり
学校づくり
特別支援教育
組織マネジメント など

1 特別支援教育について学びませんか

特別支援教育とは、特別支援学級や特別支援学校に在籍する児童生徒のみを対象とするものではなく、通常の学級に在籍する児童生徒も含め、一人一人の教育的ニーズに応じて行われる教育です。

令和４年１２月に文部科学省が公表した「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果」によれば、全国の公立小・中学校の通常学級に在籍する児童生徒のうち、８．８％が学習面や行動面に著しい困難を示すとされました。また、各自治体における５歳児健康診査の実施が進む中、従来見過ごされてきた発達障害の特性のある幼児等を把握するケースの急増も予想され、発達障害のある幼児児童生徒等に対する、就学前からの切れ目のない支援体制の構築や、学校における適切な支援の推進、通級指導の充実等が求められています（令和６年１２月；全国特別支援教育振興協議会文科省行政説明資料）。

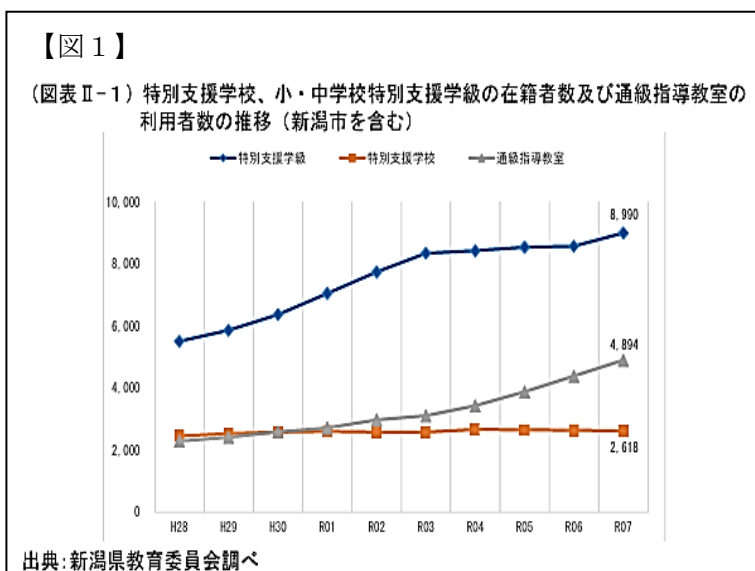
令和8年3月に策定された「第2期新潟県教育振興計画」では、基本理念である「一人一人を伸ばす教育 ～一人一人の個性に応じた、質の高い豊かな教育の推進～」のもと、基本方針Ⅱとして「誰もが等しく豊かな教育を受けられる環境の整備」が掲げられています。新潟県では、特別支援教育がスタートして以来、発達障害を含む特別な支援を必要とする児童生徒の教育的ニーズに応じ、本人の力を最大限伸ばす指導・支援が推進されてきました。その中で、特別支援教育に対する理解が徐々に広がり、特別支援学校や特別支援学級等に在籍する児童生徒、また通常の学級に在籍し通級指導教室を利用する児童生徒の数は増加しています【図1】。

【図1】

（図表Ⅱ-1）特別支援学校、小・中学校特別支援学級の在籍者数及び通級指導教室の利用者数の推移（新潟市を含む）

年度	特別支援学級	特別支援学校	通級指導教室
H28	5,500	2,500	2,200
H29	5,800	2,500	2,300
H30	6,300	2,500	2,400
R01	7,000	2,500	2,600
R02	7,800	2,500	2,800
R03	8,300	2,500	3,000
R04	8,400	2,500	3,300
R05	8,500	2,500	3,800
R06	8,500	2,500	4,300
R07	8,990	2,618	4,894

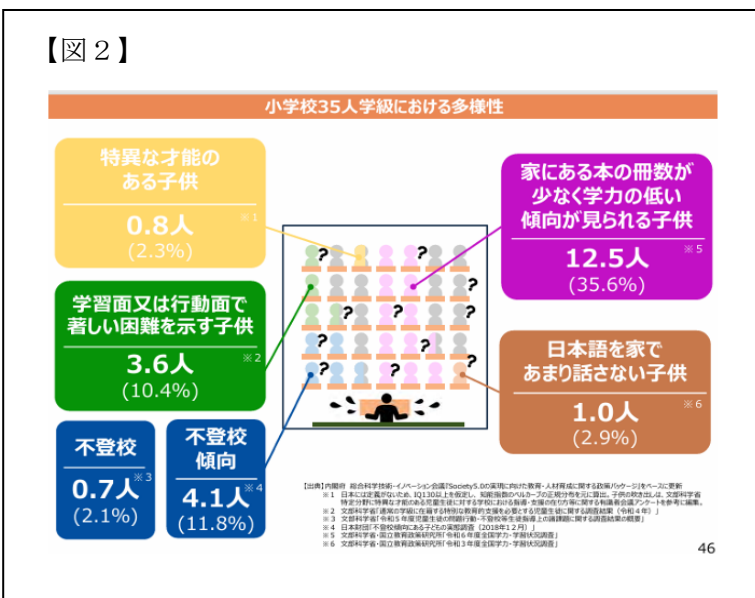
出典：新潟県教育委員会調べ



このような状況を踏まえ、基本方針Ⅱを実現するための施策として「インクルーシブ教育システム等の推進」が挙げられています。「インクルーシブ教育システム」とは、端的には、障害のある者と障害のない者がともに学ぶ仕組みとされており、仕組みの構築のためには、個人に必要な合理的配慮が提供されること等が必要とされています。また、近年、新潟県においても日本語指導が必要な児童生徒は増加傾向にあります。障害のある子どものみならず、一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行い、全ての児童生徒が安心して学ぶことができる教育環境を

特徴	人数	割合
特異な才能のある子供	0.8人	2.3%
学習面又は行動面で著しい困難を示す子供	3.6人	10.4%
不登校	0.7人	2.1%
不登校傾向	4.1人	11.8%
家にある本の冊数が少なく学力の低い傾向が見られる子供	12.5人	35.6%
日本語を家であまり話さない子供	1.0人	2.9%

【出典】内閣府 総合学習指導・イノベーション促進Society5.0実現に向けた教育・人材育成に関する政策の方向性について（資料）
 ※1 日本に25歳以下の子供は、約12.5万人と推定。総人口の約1.5%。総人口の約1.5%。総人口の約1.5%。
 ※2 特別支援学校に在籍する児童生徒は、約12.5万人と推定。特別支援学校に在籍する児童生徒は、約12.5万人と推定。
 ※3 文部科学省「不登校に関する調査」によると、不登校の児童生徒は、約12.5万人と推定。
 ※4 文部科学省「不登校に関する調査」によると、不登校傾向の児童生徒は、約12.5万人と推定。
 ※5 文部科学省「不登校に関する調査」によると、不登校傾向の児童生徒は、約12.5万人と推定。
 ※6 文部科学省「不登校に関する調査」によると、不登校傾向の児童生徒は、約12.5万人と推定。



整備することが求められています。

また、通常の学級の中にも、様々な支援ニーズをもつ児童生徒が在籍していることは、次期学習指導要領における検討過程において、中央教育審議会が提示した資料でも示されており、インクルーシブ教育システム等の推進が重要であることがよく分かります【図2】。

子どもの学びの根っこにはインクルーシブ教育があり、特別支援教育とインクルーシブ教育双方の視点をもって取り組んでいくことが大切であると言えるのではないのでしょうか。

2 学校事務職員ができる支援

こうした状況の中、学校事務職員はどのように支援に関わることができるのでしょうか？私たちは直接指導する立場ではありませんが、教育環境の整備や特別支援教育就学奨励費に関する手続き、関係機関との連携などを通して児童生徒の学びを支える役割を担っています。学校経営への参画が求められている中、私たちが児童生徒一人一人の状況や、必要な合理的配慮について理解することができれば、多様性を尊重した教育環境づくりに関わっていくことができると考えています。

しかしながら、私たち学校事務職員は特別支援教育についての研修機会がなかなかありません。基礎知識がゼロに等しい方も多数で、日々学校の中で起こる様々な場面での対応に自信を持てず戸惑うこともあると思います。「特別支援？」「インクルーシブ？」と難しく捉えてしまうかもしれませんが、その考え方は実は身近なところにあると思っています。

また、インクルーシブ教育に対応した環境整備を行っているという学校事務職員も、実は多いのではないかと考えています。授業用のチョークは色覚障害に対応したチョークを購入している、学校から発出する文書は誰でも読みやすいユニバーサルフォントで統一している、という学校もあります。そんな小さなことでも、インクルーシブ教育に対応した環境整備を行っていると言えるのではないのでしょうか。

特別な支援を要する児童生徒と接する場面も、学校という環境であれば、誰でも遭遇する機会があるはずです。ブース担当の私も、教室に居られなくなって飛び出してしまった児童や、登校渋りで遅れて登校した児童に対して「どうしよう、私じゃ何もできない」と、学校事務職員としてどこまで関わるべきなのか悩んだことがあります。対応しようとしても、先生方とは異なり深い関わりがないからこそ、どう声をかけてよいか分からず、先生に引き継ぐまでの対応に困ったこともありました。

そんな経験から、「児童生徒の名前と顔が一致しなくとも、少しでも心を開いてもらえる話し方や対応を学んで、円滑な人間関係の構築をしたい」また、「特性について理解することで、支援が必要な児童生徒はもちろん、保護者や関わる人たちの疲弊感の解消や保護者の学校への信頼につなげたい」と考え、本研修を企画しました。この研修での学びが、「誰もが安心できる学校づくり」の視点を持つきっかけになれば幸いです。

本研修では、学校生活で起こりうる事例から「より良い関わり方」や「支援のカタチ」についての話題を提供していただき、参加者同士で一緒に考えます。対応や環境整備をはじめ、学校事務職員の実務につながる内容などについての意見交換もできます。様々な人から学んだ知識は学校経営に参画する「ヒント」です。「ヒント」をもとに明日からの実践に繋げてみましょう！Let's Try！！

＜参考資料・引用文献＞

- ・新潟県教育委員会「第2期新潟県教育振興計画」
- ・文部科学省「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」
- ・文部科学省「第46回全国特別支援教育振興協議会 特別支援教育の充実について」
- ・文部科学省（中央教育審議会）「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」

3 ブース内容

第1部（ブース3）

○児童生徒の理解・対応に対する話題提供

特性についての基礎的な理解を深めながら、学校事務職員が遭遇しそうな場面を取り上げます。場面ごとに、児童生徒の状態や特性に起因する言動に対し、どのように対応できるか考えてみましょう。

POINT！！ 少しでも安心してもらえる話し方や対応を学びましょう！

第2部（ブース6）

○環境整備に対する話題提供

自校の様子を思い浮かべながら話題提供を聞き、必要に応じてメモを取りましょう。

POINT！！ 他校の様子も聞き、実践できそうなことを持ち帰ろう！

MEMO

やっぱり参集だよ！ 集まれ同年代！！

研究部 ブース 4

1 やっぱり参集だよ！

皆さんが研究大会に参加する「理由」は何ですか？

研究大会ならではの「大学教授などによる専門的な講話を聴くことができる」「実践発表などの気になるテーマの研修を受けられる」などの学びがあることでしょうか。「会員だから参加するものだと思っていた」という理由ももちろんあると思います。しかし、それだけではなく、「他市町村に勤務する同期と久しぶりに話せる」「〇〇さんに会える」というように、誰かと会うことを楽しみにしている人も多いのではないのでしょうか。

ブース担当の私も、まさにその一人です。研究大会に参加する際は、同期に声をかけ一緒に参加することが定番になっていました。大会当日も、遠くの市町村で勤務している同期や以前お世話になった先輩、共同実施で新採用支援をした後輩などたくさんの学校事務職員と会い、研修の感想やお互いの近況を語り合っていました。こうした「交流」をもてることが、私にとって、研究大会へ参加する楽しみとなっていました。

コロナ禍以降、オンライン研修が急速に普及し、私たち学校事務職員が受ける研修もオンライン開催が増えました。移動の時間や費用がかからず参加しやすいというメリットは、広い新潟県において日々様々な業務を抱える学校事務職員にとってとても魅力的なものです。

しかし、様々な研修がオンライン開催に変わり、学校事務職員同士での「交流」が減ってしまい、私はとても残念に感じました。参集型の研修なら、感想を話して「だよ！」と共感し合えたり、「また会おうね」と言い合ったりできることが、オンラインではその場でできないことに物足りなさを感じました。参集型、対面型の研修には、オンライン研修にはないメリットがあります。その最たるものが参加者同士の「交流」です。研究大会もコロナ禍では中止やオンライン開催を経験しましたが、数年ぶりの参集開催となった第 40 回研究大会のアンケートでは、顔を合わせて、共に学び合うことの喜びや刺激を改めて感じたという声がありました。

研究大会は、たくさんの刺激をもらえる場です。そして、その場で感じたことを気軽に共有し、語り合うことができます。リアルな対話だからこそ生まれる深い共感や気づきがあります。また、顔を合わせて語り合える仲間がいるという心強さ、つながりも、対面だからこそ肌で感じられるのではないのでしょうか。これこそが、参集の大きなメリットだと考えます☆

2 集まれ同年代！！

皆さんは普段、同年代の学校事務職員や同期の学校事務職員とどれくらい話をしていますか？共同実施グループ内に、同年代の学校事務職員や同期の学校事務職員はいますか？研修会で会っていても、じっくり話す時間は取れているのでしょうか？

あるとき、先輩学校事務職員から「会議等で同年代と一緒にすることはあるが、会議等の内容以外の話をする時間が取れず、日頃の悩みを相談したり、情報交換したりする時間がない。」という声を聞きま

した。他にも、コロナ禍以降新採用研修や新任主任研修等がオンライン開催となり、「同期と会う機会が少ない」「気軽に相談できる相手が少ない」という声も聞きました。

私は、その話に少なからず衝撃を受けました。私は、日々の業務の中で分からないことがあると、まず、同年代や同期に聞いています。「こんなこと聞いていいのかな？」という内容も、同年代や同期であれば聞きやすいからです。上下関係の緊張感がなく、気兼ねなく話せる関係であることが多いため、安心して「ちょっとした確認」ができるのだと考えます。

しかし、このように普段から連絡をとっていても、じっくり話す時間はなかなか取れていないのではないのでしょうか。同年代や同期に「ちょっとした確認」以外にも実は話してみたいことや聞いてみたいことがありますか？「あと数年で昇任年齢だけど、〇〇さんはどうするのだろう」「今さら聞けないけど、一日の仕事の流れをどう組んでいるのだろう」「専決権を持つ職種として、どのようなことに気を付けているのだろう」「グループ長・副グループ長になったけど、どのような仕事をしているのだろう」等々。そこで企画したのが、このブースです。同年代や同期は、生活状況や仕事の面でおかれている状況や役割が近いことが多く、抱えている悩みや課題、感じているプレッシャーを共有しやすい関係にあると考えます。聞きやすく共有しやすい同年代や同期と話すからこそ、悩みや課題へのヒントや安心感を得ることができます。同年代や同期とのつながりを感じつつ、じっくり本音を語り合いましょう☆

3 ブース構成

(1) グループトーク

1 グループ4～5人でのフリートーク（グループ内の共通キーワードあり）を行います。フリートークと聞くと「何を話せば良いの」「難しいテーマだと話せるかな」などと緊張しませんか？

このブースでは、事前アンケートで回答した「聞きたいこと」や「悩み」をもとに、話したい内容が共通している同年代または同期でグループを編成しました。進行役や記録役も設定していないため、話すこと・聞くことに注力できます。グループ内の共通キーワードでざくばらんにフリートークを行いましょう。

(2) 共有

グループから、話した内容を1分程度にまとめて発表してもらいます。発表があると「大勢に対して話すことが恥ずかしい」「間違っていないかな」と思ってしまいませんか？

この発表は、正解を示す場ではなく、参加した学校事務職員全員と「共有」するための時間です。他のグループに内容を伝えることで、「あ！同じ話をしている」「〇〇の時は××するので良いのだな」「そんな考えもあるのか」など、たくさんの「気づき」を得られたり、グループワークで解決した悩み等について、新しい視点やヒントをもらえたりするでしょう。また、自分だけではないと「共感」が生まれる大事な時間です。

効果的な校内研修を考えよう

研究部 ブース5

1 あなたの研修、マンネリになっていませんか？

現在、多くの学校事務職員が、校内研修の企画・運営を担っています。しかし、「研修で伝えているはずなのに、職員の意識がなかなか変わらない」といったもどかしさを感じることはないでしょうか。もしかして、研修がマンネリになっていることが原因ではありませんか。

「本当は研修の方法を見直したいけど、効果的な手法が分からない」「日々の業務に追われ、研修の企画をじっくり練る時間がない」…。こうした状況では、毎年同じ内容や進め方を繰り返してしまい、結果として、研修を受ける職員にとっても、新鮮さがなくなり印象に残りづらくなってしまう恐れがあります。

本研修は、学校事務機能を強化し、より適正な学校事務を組織的に遂行できる体制を構築するために、効果的な校内研修企画を検討すること、さらに、校内研修を企画・実施するプロセスを通じ、企画力、提案力、そして調整力を養うことをねらいとしています。一人で考えるよりも、同じ悩みを持つ仲間と一緒にアイデアを出し合うことで、新しい視点が見つかり、学校事務職員一人一人の力がぐんと高まるはずです。校内研修がマンネリ化している現状を打破し、効果的な研修を実施するために、参加者全員で考えていきましょう。

2 学校事務職員の役割と求められている力

昨今、学校事務職員には、主体的に校務運営に参画しマネジメント力を発揮することが強く求められてきました。令和8年4月に発出された「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律の一部を改正する法律等の施行について（通知）」では、働き方改革を進めるにあたり「教師が教師でなければならない業務に専念できるようにするためには、学校の事務機能の強化は不可欠である」と記されています。このように、学校事務職員の役割は、マネジメント力の発揮に加え、働き方改革を加速させ学校事務機能を強化させるための中核として、これまで以上に強く求められるようになっていきます。学校の事務機能の強化には、校内研修は有効な手段のひとつです。校内研修を通して専門性を発揮することで、学校全体の適正化や効率化が進み、学校事務機能の強化が図られます。

では、主体的に校務運営に参画するためのマネジメント力とは具体的にどんな力でしょうか。新事研究基本要領A C Tで示しているキャリアラダーでは、経験年数に応じて求められる資質・能力が明示されており、主事・主任層のうちから、「調整力」・「企画力」が必要とされています。学校におけるマネジメントの本質は、限られた経営資源（ヒト・モノ・カネ）を最適に運用し、学校課題を解決することにあります。多様な教職員や関係者の意向をまとめ、組織を円滑に動かす「調整力」、学校の課題に対して具体的な解決策を立案する「企画力」、さらに、解決策を校務運営に反映させるための「提案力」は、まさにマネジメント力の一部であると考えます。これらの能力をレベルアップできる格好の実践の場が校内研修です。より効果的な校内研修を企画・検討するプロセスを通じて、これら3つの力が実践的に養われていきます。

学校・地域の「組織力」を高める -学校事務職員を育成する「キャリア・ラダー」-

“キャリア・ラダー”とは、キャリアアップのためのしほぎを意味する造語で、キャリアにおける道筋を示し、将来の自己のキャリアイメージを明確にするためのものです。

標準的職務通知に基づく職位別の役割と省令事務長・事務主任の役割

	主事（事務員）	主任・主査	事務主幹	総括事務主幹
	基礎力	調整力	企画力	統括力
学校での役割	校務分掌の職務を適正に遂行しながら、他の職員との関わりを通して標準的職務への参画を図る。	管理職や主任と協働することで、ともに教育改善を進め、自校の課題解決を図る。	- 経営者感覚をもって、教頭とともに校長を支えながら、学校経営に責任をもち、校内運営事務を統括し、教育改善を中心となって進める。 - 共同実施（共同学校事務室）のしくみを活用し、地域学校間連携に取り組む。	
共同実施（共同学校事務室）での役割	- 共同実施（共同学校事務室）のしくみを活用して、自校の学校事務の課題解決を図る。 - ミドルリーダーとして、人材育成に積極的に関わる。	- 共同実施（共同学校事務室）の責任者として、事務主幹とともに各校の学校経営に寄与する。 - サブリーダーとしての役割を担うことで、人材育成に責任をもつとともに、他校の経営に関わる。	共同実施（共同学校事務室）の経営者として、しくみを活用したり、見直したりして各校の学校経営に寄与するとともに、自校だけでなく、兼職発令校の学校経営方針の策定に積極的に関わる。	- エリアにおける経営や、様々な組織と連携することを通して、教育行政全体をつかさどる経営を行う。 - エリア内の共同実施（共同学校事務室）を地域における学校間連携拠点として機能させるためのしくみを構築する。

3 校内研修についての現状と伸びしろ

令和6年度の「標準的職務通知等に関する実態調査」の職員に対する研修を企画・運営したことがある割合は8割を超えており、研修の内容は多岐にわたりつつも、財務研修を行っている学校事務職員が約96%と圧倒的に多いことが分かりました。さらに、「なぜその研修を企画・運営したか」の回答を見ると、多くの学校事務職員が「市町村の方針」「共同実施での推進」「毎年行っているから」と答えています。この回答から、多くの学校で毎年同じような研修を繰り返している可能性が高いのではないかと考えました。教職員の異動がある学校現場において、繰り返し伝えることは、知識を定着させるために必要不可欠です。また、市町村や共同実施で共通の資料を用いることは、組織全体で共通認識を形成したり、私たち学校事務職員の準備負担を軽減したりするという大きなメリットもあります。しかし、毎年同じ内容や進め方を繰り返していると、新鮮さがなくなり型通りとなる、いわゆるマンネリ化も心配されます。

「毎年一生懸命伝えているはずなのに、職員の意識が変わらない・・・」「研修の効果を高めるために、もっと工夫できないかな」という想いを抱いている方も多いのではないのでしょうか。これまで校内研修を企画・運営し、学校事務機能の強化に携わってきたからこそ感じる『もっと効果的なものにしたい！』という想いを、次へのステップに繋げましょう。

4 みんなの経験を結集！「わくわく研修企画」へ一歩踏み出そう

研修の効果を高めるには、既存の資料も活かしつつ工夫加えることが重要です。自校の課題や職員のニーズと結びつけ、「いかに職員に『自分事』として捉えてもらうか」という仕掛けがカギとなります。

「校内研修を行った結果、職員の意識が変わった」「自分の提案で予算が有効活用され、子どもたちの環境が良くなった」そんな手応えを感じてみませんか。一人では変えることができなかった研修も、仲間と一緒に考えることで、自校で実践するのが待ち遠しくなるような「わくわく」が詰まった研修に生まれ変わります。これまでの知識・経験を結集させ、職員の心を動かす「わくわく研修企画書」を作成しましょう！

学びと交流のブース —エピローグ—

各ブースはいかがだったでしょうか？

今大会の「学びと交流のブース」は、知識や答えを習得する「ゴール」ではなく、一人一人が問いを持ち、対話を通して考えを深め、新たな実践・挑戦につながる「スタート」となることを目指してきました。

これまでの研究大会も、もちろんこの先の方向性を示す場ではありましたが、実践を振り返り、「成果」や「結論」を示す場という役割も大きかったのではないかと思います。今回は、あえて結論のような「答え」や「共通の方向性」を示すのではなく、それぞれが次の一步を踏み出すための「きっかけ」を自分自身で考え、持ち帰ることができる場にしたいと考えました。

また、今回参加できるブースは限られており、すべてのブースを体験することはできません。そのため、参加したブースだけでなく、他のブースでの学びについても、ぜひ参加者同士で共有してほしいと思います。そうした意味でも、研究大会当日だけで終わらない「学びと交流」が続いていけば嬉しいと考えています。

学校事務職員の仕事は、一見すると定型的に感じられるかもしれませんが、しかし、実際には学校や子どもたちの姿に応じてよりよい形を模索し続ける、創造性と可能性のある仕事です。今大会でも、様々な学校事務職員の取組や考えを聞くことで、日々の工夫や実践が学校全体の働き方や教育活動に良い影響をもたらすということを、改めて感じる事ができたのではないのでしょうか。

また、学校は子どもたちの学びを支える場所です。そこで働く私たち学校事務職員自身が、こうした研究活動を通して、学び、成長することの楽しさを実感することは、必ず大きな強みとなるはずです。今大会を通して、あらためて学ぶ楽しさを知り、一人一人の学校事務職員がいきいきと自信をもって活躍していくことを願っています。

このページのタイトルは「エピローグ」としました。物語のエピローグでは、結末の「その後」が描かれますが、研究大会の「その後」は、皆さんにとってどのようなものになるのでしょうか。今大会で得た新たな「学び」や「つながり」が、新たな実践・挑戦として様々な場所で、様々な形で広がっていくことを期待しています。

研究部

新潟教弘は「学校」と「教職員」のサポーターです。

新潟教弘は、**6**つの事業を推進しています

1 奨学事業

貸与奨学金
給付奨学金

2 教育研究助成事業

学校・園等研究会助成
グループ研究等の助成
特色ある教育実践校・園助成
生徒指導激励助成 など

3 教育文化事業

教育ボランティア活動助成
教育美術展開催等助成
スポーツ振興助成
教育文化活動助成 など

4 福祉事業

健康センター利用助成
30歳誕生祝・結婚祝・出生祝
宿泊助成 など

5 共済事業（提携保険事業）

教職員による教職員のための
「教弘保険」

6 損害保険事業

教弘まなびや〔教職員賠償責任保険〕
教弘まなびや〔団体総合生活保険〕
教弘フルガード〔団体総合生活保険〕
教職員収入ロングウェイサポート
教弘自動車保険 など



公益財団法人 日本教育公務員弘済会 新潟支部（新潟教弘）

〒950-0097 新潟市中央区東大通2-5-8 東大通野村ビル 8階

電話 025(244)0025 F A X 025(244)8991

活力ある教職員生活を応援します！

厚生財団は、県内教職員の相互扶助を基本理念として、団員の福利厚生増進と教育の振興を目的として組織された一般財団法人です。創立は大正3年1月25日です。



一般財団法人

新潟県教職員厚生財団



〒951-8116 新潟市中央区東中通1-86-73

Tel 025-228-3581 fax 025-224-8830

URL <http://www.koseizaidan.or.jp>

E-mail info@koseizaidan.or.jp

いつも新学協の事業にご協力いただき ありがとうございます



新潟県学校生活協同組合は、「相互扶助の新学協」「入って得する新学協」を合言葉に、組合員の皆様の生活と笑顔をサポートする福利厚生団体として取組を進めて参ります。

今年度も学協系の皆様からのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



新潟県学校生活協同組合

本部	新潟市西区善久 739 番地 2	TEL 025-379-1553	FAX 0120-28-7556
上越出張所	上越市土橋字中島 816-1	TEL 025-253-5527	FAX 025-524-9194
中越出張所	長岡市台町 2-9-13	TEL 0258-35-2854	FAX 0258-37-1915



新潟県学校教育用品株式会社

会社の信条

教材・教具の地域間格差を解消する

県内の学校に良質なものを廉価でお届けする「学校を応援する特別な会社」です！

【会社の歴史】 昭和30年11月5日に新潟県学校生活協同組合(新学協)から、新学協の子法人として事業の一部を引き継ぎ、株式会社として設立されました。児童・生徒向けの教材・教具や各種用紙類・出版物等を取り扱い、学校の教育活動を支援しています。

【主な児童・生徒対象商品】

- さんすうぼくす
- 競書・硬筆・書初の手本・用紙
- 体育着
- 給食着
- 水着(児童用)
- 卒業用品(コサージュ・証書入れ 等)

【主な学校・教職員対象商品】

- 諸帳簿
- 学校事務の手引き
- 出版物・印刷物 等
- 高性能空気洗浄機エアドック



〒950-1102 新潟県新潟市西区善久739番地2

TEL 025(378)1017

FAX 025(378)1016

E-mail: yohin@niigata-inet.or.jp

https://kyouikuyouhin.com

きょういくようひん ずっと混む - QRコード

Twitter: @Niigata_gakuyo



あんしん むすぶ
教職員共済

2026年3月リニューアル!!

自動車共済

公務使用中・通勤中の事故は 等級ダウンなし!

教職員のため
の共済だから
助かる~!!

教職員共済の自動車共済は、通常3等級ダウンする事故でも
「公務使用中」、「通勤中」の事故なら等級はそのまま! ※1
だから契約更新後の掛金も上がらない!!

教職員の交通事故 通勤時間帯が **なんと4割** ※2



※1 公務使用中はすべての契約に適用。通勤中は契約タイプがN型・O型・S型で6等級以上の場合、1共済期間中1回限り適用
※2 自動車共済の現職加入者の対人・対物事故のうち、平日の「午前7時~8時台」「午後5時~8時台」の事故の割合(2016年度~2024年度)
ご契約にあたっては必ずパンフレットおよび重要事項等説明書(契約概要・注意喚起情報)をご覧ください、制度内容をご確認ください。
承 25-企-52(2602)

リビュアル記念

専用フォームから資料&お見積書の請求で
『車ピカピカシート』をプレゼント!

詳しくは
コチラ! >>>



厚生労働省認可

教職員共済生活協同組合 新潟県事業所

〒950-0965 新潟市中央区新光町 7-4-4F

TEL:025-281-8145 【平日 9:00~17:30】



新潟県学校事務研究協議会

<https://shinjiken.ngt.ed.jp/>

「新潟県学校事務研究協議会 ロゴマーク」

「Niigata(新潟)」の「n」と「Jimu(学校事務)」の「j」、さらには全体で新潟県の地形を表現しています。また「n」は「米どころ新潟」のイメージで、お米が2粒寄り添う形にしました。今後も全県が一丸となって、より豊かな学校事務を創造していけるように願いを込めました。

空と海、水田が広がる新潟県の美しい風景と、力強く飛翔するトキを表し、青色と朱鷺色を配色しています。

第42回 研究大会

地域とともに学校を創造する学校事務の追究

令和8年8月4日発行

発行者 新潟県学校事務研究協議会

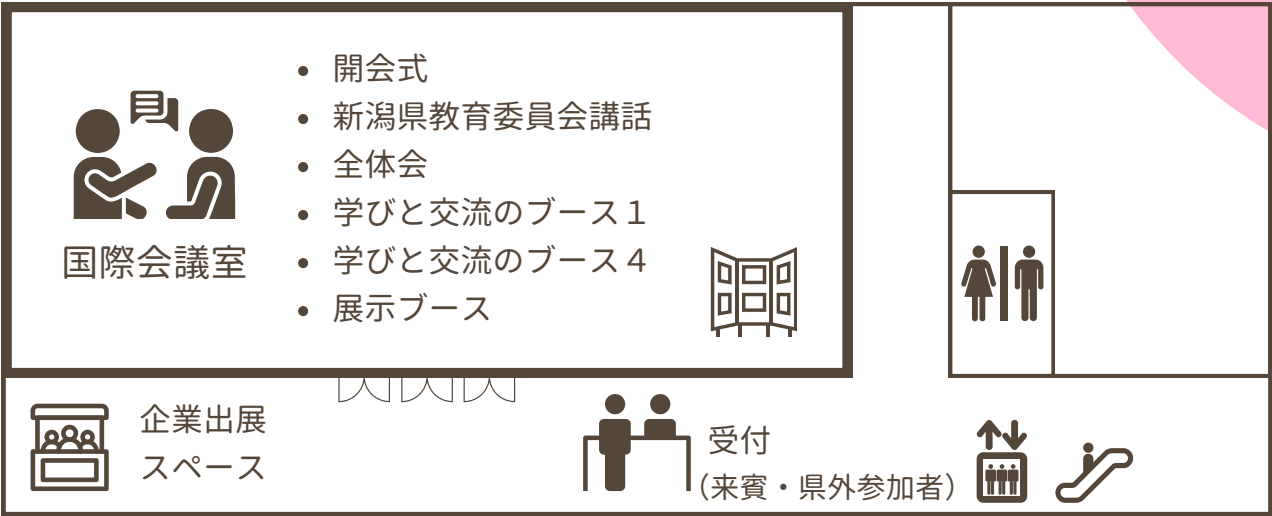
<https://shinjiken.ngt.ed.jp/>

主 催 新潟県学校事務研究協議会

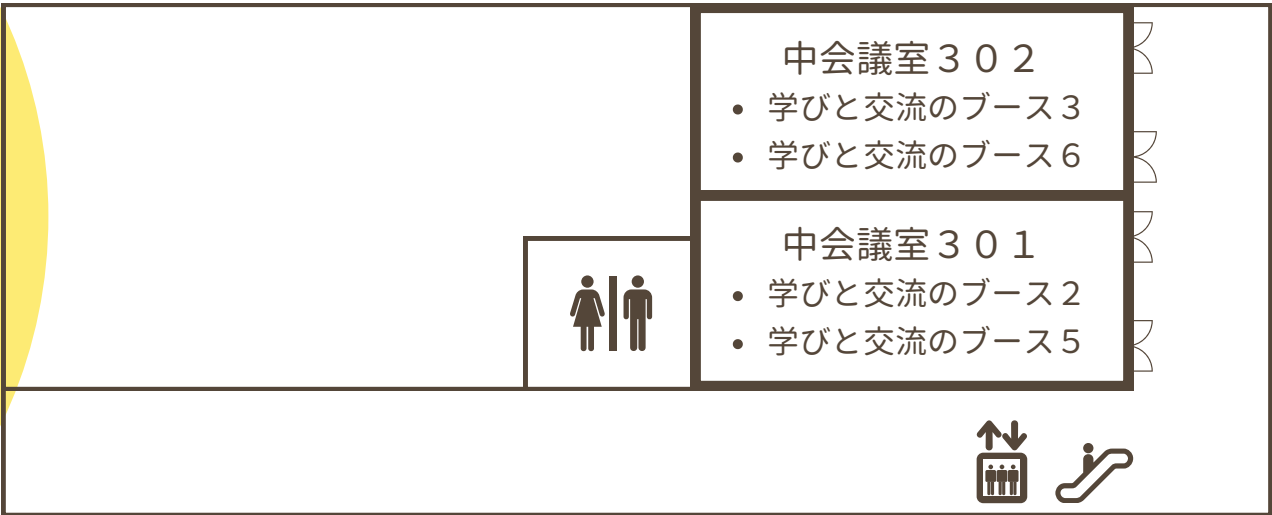
※ この紀要の印刷はPDF入稿により実施いたしました。元画像によっては見えづらい場合もあります。御了承ください。

会場案内図

4階



3階



会場一覧

内 容	会 場
開会式	4 F 国際会議室
新潟県教育委員会講話・全体会	4 F 国際会議室
学びと交流のブース1・4	4 F 国際会議室
学びと交流のブース2・5	3 F 中会議室 301
学びと交流のブース3・6	3 F 中会議室 302